

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300200		
法人名	社会福祉法人 三ツ葉会		
事業所名	楓荘グループホーム 牧の家	ユニット名	そよかぜユニット
所在地	宮崎県延岡市牧町4651番地		
自己評価作成日	令和5年7月18日	評価結果市町村受理日	令和5年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年8月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとしての特色を活かせるよう、業務優先にならないよう、入居者の症状に合わせたケアを心掛けている。地域密着型の施設ではあるが、コロナ禍で、地区の行事や小学生との入居者の交流はできなかった。しかし、地区防災訓練、クリーン作戦等に職員のみ参加したり、近隣の小学校のまち中探検の対応を職員がするなどの交流は実施し、挨拶などは継続できている。外出等ができない中でも、施設内で季節の行事、誕生日(当日開催)等のイベントの工夫をすることで、入居者の方々に楽しみができるようにしている。面会も感染状況に応じて、対面以外にも、窓越し、またはWeb面会も活用し、遠方のご家族との会話を楽しむこともできている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

業務にとらわれず利用者主体で、利用者の希望に沿った対応に努めている。利用者のペースに合わせてケアを行い、利用者本人が楽しく過ごせるよう支援している。掃除、洗濯物干しと取り入れ、配膳や下膳、テーブル拭きなど利用者の残存能力が発揮できるよう支援している。地域行事に職員が参加し地域との交流に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議で理念に基づいた話をし、対応に迷った時なども理念に基づいて考える様、声掛けをしている。		「その行為は利用者のためになるか、その行為は地域のためになるか、その行為は職員のためになるか。」という理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として、区に属し、回覧板のやり取り、地区行事への参加をしている。日々の挨拶や会話も積極的にしている。		自治会に2軒分として加入し、地区の行事情報を得ている。地域の防災訓練に職員が参加し災害時の協力を依頼した。道路沿いに畑があり、通行する地域の方からの声掛けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談や介護保険の質問などをされる機会が増えている。必要に応じ、助言や包括支援センターや事業所につないでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での数字の報告だけでなく、日々の状況の画像を見てもらいながら、活動内容の報告をすることで、伝わりやすいよう、配慮している。		運営推進会議が開催されるようになり、推進委員から感染対策や防災対策について意見が出され、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	判断が難しい内容や事故の報告等ではあるが、担当者と会話をする事で、対応につなげている。		市の職員が運営推進会議に出席し、ホームの状況を共有している。必要時の相談や助言をもらえるなど協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会にも参加し、身体拘束をしない対応をしている。玄関の鍵も自由に開錠できている。		法人内の勉強会に参加し、全職員に伝達している。感染症対策のため玄関は施錠しているが、居室から自由に入出りできる。見守りのため敷地内にカメラとセンサーを設置している。外出希望には付き添い対応している。	

宮崎県延岡市「楓荘グループホーム牧の家」(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会にも参加し、日頃から、注意を払って対応をしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしているが、必要時には改めて関係機関に確認し、ご家族への情報提供を行う。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時、改定時には不明な点がないか等の確認をしながら、解りやすく説明するようにしている。また、質問事項にもしっかりと応える様、対応している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時や電話等で、ご家族と管理者は多くの情報共有、交換ができるよう、配慮している。そこで得た要望については、管理者から職員へ伝達、共有している。		管理者は家族とできるだけ話をする機会を設け、出された意見や要望は職員と共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設時から続けている「振り返りノート」を活用し、各個人の意見を書き込んでもらい、必要時には、会話をする時間を作っている。会議でも必ず意見をいう流れを作っている。		「振り返りノート」に書かれたことを話し合い実践につなげている。畑作り、スイカ割、焼肉会、運動会、大師祭りの出店の買い物など職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間、勤務内容等、自分で考えて行動しやすいよう、意見交換、相談する機会を作り、実践しやすい環境づくりをしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員全体会議を活用し、勉強会を実施している。また、認知症実践者研修は毎年、一人は参加し、職員間で新しい情報を共有している。」「			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦で直接的な交流はないが、他事業所との情報交換等を通じて、相談や横の繋がりを大切にしている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から、本人が一番不安であることを考え、職員ができる限り寄り添い、安心できる環境づくりを行う。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の説明の時点から、不安やわからないことを確認しながら進める。また、面会時にはできる限り管理者が見送り、玄関の外などで話しやすい機会を提供するように心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居をすることで、ご家族、本人が認知症の症状でお困りな状況から、程よい距離感を作ることができ、施設とご家族と一緒に入居者のケアを協力しておこなうよう、情報交換を密にする。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の一つ一つの症状を把握、職員間で共有し、その人らしく生活ができるよう、本人の意向を確認しながら対応していく。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも職員、家族と情報共有をする。イベント等の写真をSNSで家族に送付することにより、表情の変化等をみていただく。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で地域に出向くことは難しいが、ドライブで住まいの近くを通ったり、会話の中に取り入れるよう、配慮している。		窓越しの面会やオンライン動画での対面で家族との関係継続を支援している。地域への散歩同行や馴染みの場所へのドライブで関係継続を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の特性、性格を職員が把握し、共同生活室にて入居者間の関係性をうまく間に入ることで、共同できるよう配慮する。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設への入所等で退居した場合でも、ご家族の相談や入所先を探す相談に必要な応じ、対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	花のお世話、漬物作り等、本人のやりたいことができるよう、希望に合わせ、本人に教えてもらいながら、実施している。	ほとんどの利用者は思いや意向を伝えることができているが、困難な場合は1対1で対応しゆっくり話を聞く機会を設けている。外出願望には散歩同行やドライブで対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調理や家事を好まれる方は、その方がやりやすいような配慮をし、畑を好まれる方は積極的に作業をしてもらえ環境づくりをしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の覚醒状態、気分等に応じて、居室対応や食事の分食、提供時間の変更等、状況に合わせて対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を積極的に介護職、計画作成者と情報交換し、不明な点等はご家族に情報提供していただくようにし、計画を作成している。	電子カルテで介護計画、日々の記録等管理しているので、介護計画をいつでも閲覧することができ、必要な情報を確認できる。介護計画と日々の記録が連動できている。家族には半年に1回説明し介護計画を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量の変動や睡眠時間の変動がある方が多い為、記録を活用し、情報の共有、申し送り、対応の実践に活かしている。			

宮崎県延岡市「楓荘グループホーム牧の家」(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に業務優先にならずに、入居者の行動、考えを優先し、その対応ができるように、決まった業務を作らずに、対応した職員が考えてうごけるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型の施設よして、地区住民や地区の小中学校とのか関りを大切にし、挨拶をはじめ、会話をする機会を作っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前から通院していたかかりつけ医を継続して受診している。ご家族、医療機関との情報共有を密にできるよう、「受診シート」を作成し、必要な情報交換、共有がスムーズにできるようにしている。	原則家族による受診対応であるが、有償ヘルパーの利用や車椅子で家族が対応できない場合はホームの車で送迎し受診を支援している。家族や医療機関との情報共有のため受診シートを活用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置がない施設となるため、異常の早期発見、早期対応に努め、必要時にはご家族、医療機関と連携し、早期の受診に繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院にも対応できるよう、定期的に介護サマリーの見直しを実施し、体調に不安がある場合には、救急搬送の準備もしておく。入院前後も病院関係者と連絡を密に取り、ご家族にも説明ができるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初より、看取り対応はできないことを伝え、重度化した場合の対応についても説明している。かかりつけ医や入院のできる病院との情報共有をし、状態に応じ、ご家族に説明、同意の上、対応している。	入居時に看取りができないことを説明し、重度化についても早めに家族に相談している。医師からもぎりぎりまでホームで対応していることを説明してもらえようになった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時も対応できるよう、情報の共有、症状の申し送りができるよう、発生時に対応した内容を対応していない職員にも共有するよう、癖づけている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に応じた防災訓練の実施や、訓練に参加できなかった職員への情報共有、夜間を想定した避難訓練、地区の防災訓練への参加、推進会議での地区との情報共有を実施している。	パッケージ消火設備を各ユニットに設置している。地区の防災訓練に職員が参加し、避難時の協力を依頼している。2階に食料品、毛布、ライフジャケットなど備蓄している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者に対し、人として敬意を表した言葉かけ、対応を心がけている。	排泄介助や入浴介助時に同性介助に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に自分の考えを訴える方が多い為、その日のユニットの状況により、配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならずに、その日の認知症の症状や入居者の状態に合わせて、職員が考えて対応するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方もいるので、入浴時間なども、配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は唯一の楽しみでもある上に、その食事が最後になるかもしれないという思いで、常に盛り付けや色彩も気にするようにし、準備片付けもできる方にはしていただいている。	入居時には歓迎食、利用者の誕生日には好みの食事を提供している。食材は各ユニットに業務用冷凍庫を配置し、業者から配達してもらい、感染対策や職員の負担軽減に役立てている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢な為、食事摂取量の確保が難しい方には高カロリージュースや食べやすい物、分食でいつでも食べれる物を準備し、少しでも食べていただくよう、工夫をしている。			

宮崎県延岡市「楓荘グループホーム牧の家」(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に声掛けはするが、本人の気分や行動に応じて、時間や場所をかえて、対応している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄意のある方ない方に限らず、本人の行動や表情、または定期的にトイレ誘導をしている。失禁している場合は、本人の気持ちを配慮し、交換をしている。	各居室にトイレがあり、ゆっくりとトイレを使用できる。失禁に気付かない利用者もいるが、紙パンツをできるだけ使用しないようにしている。また職員の意見で布パンツに戻した例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から乳製品や繊維質な食材などを活用し、水分補給にも気を付けている。運動もしているが、必要に応じ、医療機関と相談し、下剤等の調整もしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴ができるよう、曜日の固定はせずに受診の前日や体調に応じて、申し送りをしながら、本人の希望にも合わせて対応している。	昇降式ドアの浴槽になっている。失禁の場合にはシャワー対応をしている。本人の希望で夕方入浴する利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢な方も多いので、昼夜逆転しない程度には日中も休む時間を取れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたお薬を介護職がパソコン入力、仕分けをすることで、情報を共有し、服薬介助は服薬マニュアルを順守し、二人介助で対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今できることを大切にし、本人の好むこと、できることをやりやすい環境づくりを心がけている。			



宮崎県延岡市「楓荘グループホーム牧の家」(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を好まれる方は、ドライブや散歩を取り入れ、希望の場所に行くこともある。家族や地域の方との外出は感染対策の為、中止している。		外出希望者には制限せず、希望に沿って個別に散歩同行やドライブで外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理についてはご家族に依頼している。必要な場合は家族に連絡し、対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の取り次ぎ、オンラインによるビデオ通話等も活用している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要以上の装飾はせずに、季節の飾り物や誕生日祝等の飾りつけのみとしている。		共用空間は華美な飾りつけはせず、居心地よくゆっくりくつろいで過ごせるように、外の景色がよく見える位置にソファが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室でも集団を好まれる方はテレビ前のソファに座ったり、その日の状況に応じて、職員がバランスをとっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は馴染の物や写真を置くなど、本人、家族の好みにしてもらっている。		ベッド以外は、利用者個人のタンスや衣装ケースなどで整理整頓されている。居室にトイレと洗面台が設置してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	鍵をする事はなく、壁に表示したりすることで、安全に配慮し、自由に動けるようにしている。			